

平成29年度 シラバス (総合実習)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科(科目)	水産(総合実習)	単位数	4単位	学年(コース)	3学年(資源育成コース)
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

1. 学習目標

水産増養殖に関する基本的な知識と技術を習得させ、種苗生産・放流ができる能力と態度を育成する。

2. 指導の重点

資源増殖に対する理解を深め、地域漁業に貢献できるように

- ①種苗生産を通して、生命の尊さを学ぶことを目指します。
- ②稚魚の放流等の取り組みで、漁業者との交流を持ち、豊かな心を育てることを目指します。
- ③地域漁業に貢献するための種苗生産・放流方法を身に付けることを目指します。

3. 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	海産魚類の種苗生産、淡水魚養殖 1学期期末考査	○ヒラメ・オニオコゼの種苗生産、チョウザメ・イトウ・銀ザケ養殖(1年間)	○種苗生産における餌料の大量培養と飼育管理の知識・技術を身に付ける。	50	授業の取組・態度 定期考査 課題 レポート
9 10 11 12	魚類・海藻類養殖 2学期期末考査	○ヒラメ・オニオコゼ、チョウザメ・イトウ・銀ザケの飼育管理、マコンブ養殖	○養殖技術のに関する知識・技術を身に付ける。	58	
1 2	養殖魚の利用 学年末考査	○ヒラメ・オニオコゼの出荷方法と流通	○鮮魚の活け締めや出荷手順・方法、流通過程に関する知識を身に付ける。	20	

計 128 時間 (55分授業)

4. 課題・提出物等

各学期の期末考査終了後に実習・実験レポートを提出させる。

5. 評価の規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
魚類の種苗生産を理解し、関心を持ち、積極的に授業に取組もうとしている。	魚類の種苗生産実習を通して、科学的にもものを見る能力が身に付いている。	種苗生産技術に関する基本的な技能が身に付いている。	魚類の種苗生産に関する基本的な事項を理解している。

以上の観点を踏まえ、

- 実習への取組状況 ○ 課題・レポートの提出 ○ 定期考査
などから、総合的に判断します。

6. 担当者からの一言

実習を通じて、海産・淡水産魚類などの増養殖について実践的な学習をします。生物を育てることの重要性や飼育技術を学ぶことができます。

(担当：貝田雅志、増田真之介、渡邊憲一、伊藤東)

